

職員による自己評価

A環境面

- ・事業所と駐車場が離れているため、多動、突発的な行動がある児童と手を繋いでも危険を感じる事がある。
- ・多動傾向の強い児童が増え、窓ガラスや壁などに体当たりする事から補強が必要。
- ・事業所入所までの階段が急、暗い、隣の雀荘からの匂いが強烈な事がある。
- ・訓練室内の職員配置によっては児童が死角に入ることがある。
- ・トイレが一個なので、タイミングがかぶり、児童に我慢をさせてしまう事がある。
- ・思春期に差し掛かる児童がいる中、クールダウンスペースがない。現状トイレ、事務所のカーテン仕切りのみ。

B児童への支援内容

- ・支援級児童と養護学校児童が混在する中、プログラム内容によって差が大きくなる。
- ・職員の過度な声掛けによって不必要に不安定になるケースがある。
- ・支援方法の統一化が進まない中、職員によって対応方法が違い、児童を混乱させてしまう事がある。
- ・マスク生活の中で、できている子、着用が難しい子、着用したくないとこだわりを持つ子が混在し、支援中や食事の際、配置が難しく感じる。
- ・男児児童が多い中、同性介助ができない場合がある。

C関係機関との連携

- ・管理者・児発管以外、直接話す機会はない。
- ・コロナ禍の中、関係機関との連携が少なくなっている。
- ・学校お迎え時、『引継ぎは端的に』との指示があり、共有したいことが話せなかったり聞けなかったりする。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・基本的には送迎時に様子をお話するが、時間が限られているため、情報旧友が少なくなってしまう。
- ・特記事項がある場合、当日に電話連絡、共有。
- ・事故、怪我は起きた時点で連絡するようにしている。

E非常対応

- ・年に2回、避難訓練週間を設け、実施している。
- ・事業所が2階の為、昇降訓練に不安を感じる。

保護者による評価

A環境面

- ・事業所が2階にあり、そこに繋がる階段が子供にとっては急に感じる。
- ・事業所に繋がる通路が暗い。
- ・大きな一部屋で過ごすので職員さんの目が行届いているのか不安を感じる時がある。
- ・換気はできているのか？子供たちの蜜回避はできているのか？
- ・支援級児童と養護学校児童が混在していて、きちんとした支援はできているのだろうか？

B児童への支援内容

- ・連絡帳や送迎時に話したことが伝達されてないことがあり、不安を感じる。
- ・予定表を提出したり、変更があれば連絡しているのに、職員さんの中で共有されてない。
- ・特記事項があった時、お電話や役職者の方が対応してくれて安心する。
- ・子供の事をよく観察してくれていると感じます。
- ・急な変更にも対応してくれ助かっています。
- ・宿題への取り組みを促してくれて助かっています。
- ・団体活動のほか個別にいろいろ配慮してくれていてありがたいです。

C事業所からの情報発信

- ・利用者負担額について詳細がないので、どこにいくら何にかかっているのか知りたい。
- ・連絡帳、送迎時にお話ししてくれて様子が分かります。
- ・月一の新聞で子供がどのように参加しているのか、全体の雰囲気はわかって楽しみです。
- ・楽しみで始めたダンスを動画に撮ってくれたのは嬉しかったです。
- ・自宅療養期間中、工作キットがあったのはよかった。

D非常対応

- ・避難場所・避難経路がはっきりわからない。
- ・実際起きたことがないので、よくわからない。
- ・避難訓練週間としてのレクがあるが、内容を詳しく知りたい。
- ・コロナによる、休業や経過観察などラインがわかりづらい。

【共通点】

- ・保護者様からの希望・要望・伝達内容が共有されていない。
- ・共有不足により、支援内容に差が出てしまっている事がある。
- ・訓練室にいる際、目の行届かない場面が少なからずあると感じる。
- ・児童特性の差の開きにより、レクの内容が簡単すぎる、もしくは難しすぎる。
- ・事業所の立地、清潔さに欠ける。

【相違点】

- ・非常災害時の対応、周知について。

事業所内での分析

事業所の強み

- ・事業所オープン当初から長く勤めてくれている職員がいる。
- ・たくさんの知識を持った職員が増え、支援内容のバリエーションが増えた。

事業所の改善点

- ・コロナ対策が充分なのかどうか
- ・事業所の窓の飛散防止シートがはがれてしまっている
- ・壁の穴があいてしまっている。
- ・報連相の抜け漏れ

事業所の改善への取り組み

- ・コロナウィルスの感染防止対策の徹底
→職員(マスク着用・検温・手洗いうがいの徹底)
→児童(マスクは出来る限りしてもらおう・検温・手洗いうがいの徹底・食事時の座席配置を同一方向に変更)
- ・整理整頓、清潔を保てるよう、日々気づいた事を伝えていく。
- ・避難訓練・経路について、年 2 回行う避難訓練週間時に保護者様にも最新の情報をお伝えしていき、書面での避難経路をお渡しする。(ブログなどでの写真掲載と説明を行う)
- ・段ボールなどを使い、緊急時のクールダウンスペースに使用していく。
- ・朝礼終礼の内容を濃くしていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所内のジョイントマット張替を行い、児童特性に合わせて窓ガラス、壁などに補強を行いました。環境面では出来る事が限られておりますが、出来る事から早急に進めて行きます。支援に関しましては、コロナ禍の中お友達とのコミュニケーション、学力低下などに不安を抱える保護者様も多いので、ライズとして可能な限り手助けできるよう尽力いたします。職員間の共有事項は引き続き、朝礼終礼で多くの情報を共有出来るよう振り返りと今日の課題として確認をしてまいります。

まだまだコロナ禍の生活、支援が続きますが、通所して下さる児童の笑顔を守れるよう、安全安心第一な事業所作りをしていきたいと思っております。

事業所名 ライズ児童デイサービスやこう幸

担当者 鈴木 まどか